



令和6年能登半島地震災害における課題と教訓

日時 2024年8月22日(木) 13:00~16:00

場所 オンライン開催 Zoom (定員300名)

出席者 日本学術会議 防災減災学術連携委員会

防災学術連携体の63学協会(防災連携委員、学識会員、学会事務局)

防災に関わる府省庁の担当者

令和6年元日に能登半島で最大震度7を観測する大地震が発生し、建物の倒壊、土砂災害などに冬の低温環境も加わり、280名を超える方が亡くなりました。また津波、火災、インフラ・ライフラインの被害などにより多くの方の生活継続が困難となりました。

この地震は多くの課題を提起しています。例えば、地下の流体の動き、長さ150kmの活断層のずれ、地盤の4mの隆起による海成段丘の出現、広範囲にわたる液状化と側方流動は、学術界に大きな研究課題を突きつけました。また、半島というアクセスルートが限られた地域で、道路や港湾や水道が損傷し、水産業や地場産業が打撃を受け、その復旧には困難が伴い、過疎化・高齢化した地域での被災者支援、住宅や生活の再建に向けた対応を含めて、さまざまな行政上の課題が浮き彫りになりました。さらに、道路の寸断により孤立した地域での避難や救援の方法や情報通信の確保と情報の信頼性は、新たな問題を提示しています。

本連絡会では、能登半島地震災害における課題と今後の対応について、学術と行政が一堂に会して、多様な視点から総合的に議論し、その教訓について探りたいと思います。

プログラム

司会 防災学術連携体代表幹事 米田雅子
防災減災学術連携委員会 田村和夫

13:00 開会挨拶 日本学術会議副会長 三枝信子
趣旨説明 防災減災学術連携委員会委員長 竹内 徹
来賓挨拶 内閣府 政策統括官(防災担当) 高橋謙司

13:15 令和6年能登半島地震災害における府省庁の取り組み(各15分)
・能登半島地震に係る政府対応の点検について
内閣府 政策統括官(防災担当) 付参事官(調査・企画担当) 森久保 司
・通信の確保 総務省 総合通信基盤局電気通信事業部安全・信頼性対策課長 大塚康裕
・インフラ被害と復旧 国土交通省 水管理・国土保全局防災課長 西澤賢太郎
・地震のメカニズム 文部科学省 研究開発局地震火山防災研究課 地震調査管理官 上野 寛

14:15 令和6年能登半島地震災害における学協会の取り組み(各15分)
・地形変化(長期的視点、海成段丘等) 日本第四紀学会 宍倉正展 産業技術総合研究所
・地盤の被災状況と対策(液状化、側方流動等) 地盤工学会 橋本隆雄 国士舘大学
・年代別建物被害、倒壊建物の原因と対策—木造建物を中心として
日本建築学会 五十田 博 京都大学
・災害対応(情報通信技術等)
日本計画行政学会・地理情報システム学会 山本佳世子 電気通信大学
・医療・救援・避難(過疎地の避難等における課題)
日本災害医学会 近藤久禎 DMAT事務局次長

15:30 全体意見交換

15:54 全体総括 防災減災学術連携委員会副委員長 目黒公郎
閉会挨拶 防災学術連携体代表幹事 渦岡良介

16:00 終了 出席者全員による集合写真撮影(スクリーンショット)